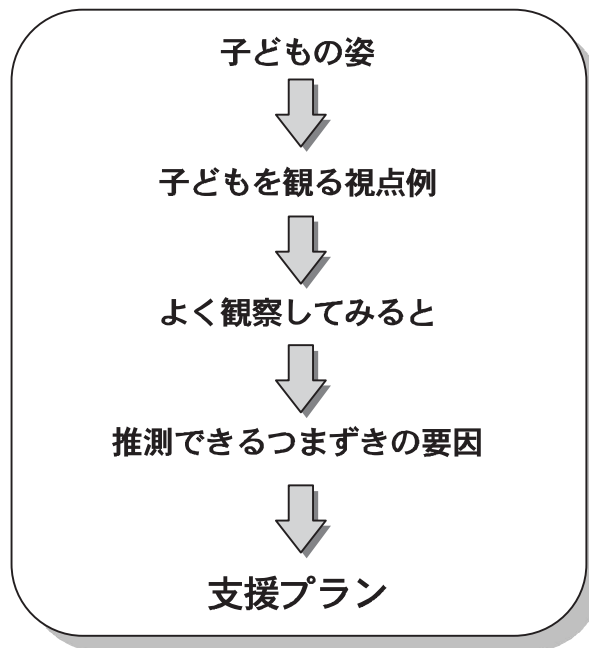


# 第4章

## ワンポイント支援 ～ こんなとき どうする？ ～

第4章では、特別な支援を必要とする子どもの困難さをどう理解し、どのように支援を具体化していったらよいかを紹介します。ただし、「このような支援さえすればよい」という確定的な支援法を示しているのではありません。実際の支援方法は、個々の子どもによって、異なります。

ここでは、支援を考える際、以下の流れを大切に考えています。



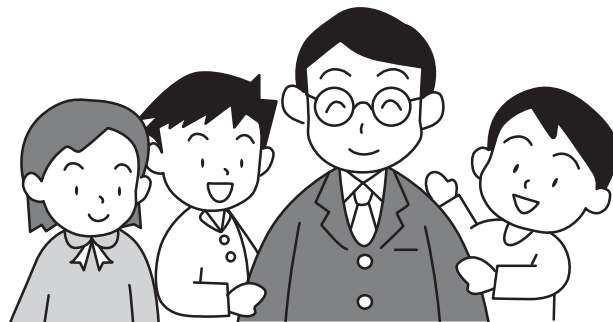
目の前にいる子どもが、どのようなところを難しいと感じているのか、なぜつまずいているのかを考え、子どもの特性だけではなく、教師側の対応や学習環境なども踏まえながら、つまずきの原因や背景を探り、支援プランを立てていくことが、適切な支援を具体化することにつながります。

そして、その具体化した支援を実際に行い、子どもの姿から支援の有効性を振り返り、評価することにより、より適切な支援へと発展させていきましょう。

## 先生方のクラスの子どもに、こんな様子は見られませんか？

- 1 ひらがなの習得が難しい
- 2 漢字を覚えることが苦手
- 3 音読が苦手
- 4 作文に対する抵抗感が強い
- 5 意味の理解や推論することが苦手
- 6 注意の持続が難しい
- 7 グループ活動が苦手
- 8 形の特徴をつかむことが難しい
- 9 文章題が苦手
- 10 指示の通りに動くことが難しい
- 11 ことばで相手に伝えることが難しい
- 12 整理整頓が苦手
- 13 衝動的な言動が多い
- 14 興味・関心に偏りがある
- 15 場面の切り替えが難しい
- 16 予定変更の受入れが難しい
- 17 行動が遅い
- 18 忘れることが多い
- 19 授業中に席を離れてしまう

学習面や行動面で支援を必要とする子どもの姿に近い事例をご覧いただき、参考にして、支援プランを立てる際のヒントにしていいただければと思います。



# 1

## ひらがなの習得が難しい

ヒトシさんは、ひらがなの文章を読んでいる時に、声が小さくなったり、黙り込んでしまったりします。また、文章を書き始めても、途中でやめてしまう様子が見られます。

### 子どもを観る視点例

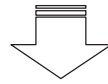
- 読んだり書いたりしている時に困っている様子が見られるか。
- 速さは、他の子どもと比べてどうか。
- 聞いたり話したりする力はどうか。
- 教科書以外の本を自分から読んでいるか。
- 苦手とするそれぞれのひらがなに共通点はあるか。



### よく観察してみると

図書館では、開いた本の文字を指で追いながら、声を出さずに口を動かして、楽しそうに読んでいるので、読むことに興味はあるようです。音読の場面で、黙り込んでしまうと、担任をチラチラと見ているときもあります。ひらがなカードで遊んでみると、「れ」を見て「ね、って読むんだっけ」と、首を傾げたり、「わ」を書くときも、「わ、わ」と、繰り返して言いながら、空書きをして思い出そうとしたりしています。

### 推測できるつまずきの要因

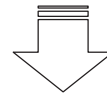


似た形のひらがなを区別することが苦手（「ね」と「わ」など）

文字と音を結びつけることが苦手

読み方が分からないことを言い出せずに困っている

### 支援プラン



- 線や形の違いを見分けられるように、モールや粘土等で文字を作る活動を取り入れていく。
- 自分の言葉で表すことで、記憶しやすいように、形の似た文字の違いを「ねこのしっぽは、クルン」などと伝える。

- 発音された文字は、どの文字カードであるかを確認できるように、カードゲームを取り入れる。
- 聞き取った言葉と逆の順に、文字カードを並べ替えることなどを一緒に楽しむ。

- 分からなくて困ったときに、ハンドサイン等の合図で、伝えることをクラス全体に示し、誰でも意思表示をしやすい雰囲気づくりをする。
- まずは、グループ学習で、友だちに質問するという内容を取り入れてみる。

# 漢字を覚えることが苦手

2

ユカリさんは、宿題の漢字練習を欠かさず行っていますが、漢字テストで10問中3問程度しか正解しないことが続いています。日記などでは習った漢字をあまり使用せず、書いた漢字には細かい間違いが多くあります。

## 子どもを観る視点例

- 読みにつまずきはないか。
- 漢字だけでなく、ひらがなも間違えるのか。
- 間違いやすい漢字に共通点はあるか。
- 黒板の板書を視写するのに時間がかかっているか。
- 書字、工作、運動などに不器用さがあるか。



## よく観察してみると

ユカリさんの作文を丁寧に見返してみると、例えば「矢」を「失」と書くなど漢字の細かい部分を間違えたり、編とつくりを逆に書いてしまったりしていました。

板書を視写する時は、何度も黒板を見て1文字ずつ写しているため、時間がかかってしまいます。また、字がマスからはみ出て、何度も消したり書いたりするなど、手先の不器用さが感じられました。

## 推測できるつまずきの要因

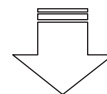


手、指先の巧緻性にぎこちなさがある

図形や文字の形を見て、記憶することが苦手

細かい部分の形や線の重なり等を正確に捉えることが難しい

## 支援プラン



- 鉛筆用グリップや大きな消しゴムなど、使い易い筆記用具を用意したり、鉛筆の持ち方や姿勢を確認したりする。
- マス目の大きなノートや、罫線入りの用紙を準備しておき、必要な時は誰でも使えるようにしておく。
- 少しずつ自信をつけていくように、おおらかな採点を行い、個別に配慮をする。

- 板書と同じ内容のプリントなどを手元に用意し、確認しやすくする。
- ワークシートを使って書く負担を減らし、授業内容の理解や問題を考えることに集中できるようにする。
- 漢字の成り立ち・イメージを説明したり、「立って木を見る親」などと言葉で意味付けたりする。

- 同じような形の漢字を示し、どこが違うのか気づかせる。
- 「ノを書いてよこ、よこ、最後に人を書く⇒矢」など、書き順や組立てを言語化して書く。
- 漢字のパーツ毎に色を変えて示すなど、漢字の組立てを分かりやすく示す。

# 3

## 音読が苦手

ミュキさんは、音読の時に、なかなか読み始めなかったり、小さな声で、たどたどしく読んだりします。読み間違えることもよくあり、先生からは、「よく見て読もう」と声掛けをされています。

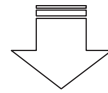
### 子どもを観る視点例

- 決まった文字や文末などの読み間違いのパターンがあるか。
- 自分で読みやすいように何か工夫しているか。
- 友だちの音読に合わせて、文章を目で追っているか。



### よく観察してみると

読む順番になっても、どこから読んだらよいのか困っていることが多いです。文字や行をぬかしたり、同じところを読んでしまったりすることがあります。また、言葉の途中で区切って読んだり、指で文字を押さえながら読んだりしている時もあります。



### 推測できるつまずきの要因

目で文字を追うことが困難

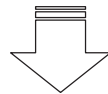
読む箇所にご注意を払って見ることが難しい

言葉のまとまりが分かりにくい

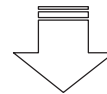
### 支援プラン



- 文字を指で押さえながら読むなど、様々な方法があることを紹介する。
- 一文読みから慣れていけるように、文字数の少ない文章を示す。
- 顔を動かさずに追視ができるように練習してみる。



- 一行分だけのスペースを切り抜いて作った補助シートを教科書に当てて読めるようにする。
- 文字の書体や大きさを変えたり、行間を空けたりして、どのような形式が読みやすいかを工夫する。



- 文節の区切りごとに斜線を引いたり、色で強調したりして、単語のまとまりを見つけやすくする。
- 単語が書かれたカードを見て、すばやく読み取ることを楽しめるような時間をつくる。

## 作文に対する抵抗感が強い

4

ケンジさんは、作文や日記を書き始めるまでに、とても時間が掛かります。書く文章は、いつも2~3行で、パターンが決まっていることが多く、書字も乱雑になってしまいます。

### 子どもを観る視点例

- 文字を書くことを面倒がっていないか。
- 会話での表現力はどうか。
- 経験した内容を具体的に覚えていられるのはどのくらいか。
- ひらがなや漢字を書く様子はどうか。



### よく観察してみると

「何をしたか忘れた」と口ぐせのように言い、何を書いたらよいのか、なかなか分からない様子です。文を書いても、出来事の羅列となります。しかし、資料や写真を見ると、「ここに〇〇があった」と、話し始めます。また、書き方では、文字の大きさがそろわずにマスからはみ出すことも見られます。

### 推測できるつまずきの要因

経験したことを思い出すことが苦手

文字を書くことへの苦手意識

文章を順序立てて構成する力が弱い

### 支援プラン

- 経験したことを想起できるように、手掛かりとなる写真や資料を見せる。
- 話すことを聞き取って、文章にして示す。
- 「～の時は、どうだった？」等、会話をしながら文章をふくらめていく。

- ノートや原稿用紙のマス目や罫線は、書きやすい大きさや幅にする。
- 正しい書き順や漢字の使用を最初から要求せず、書くことができれば、称賛する。
- 鉛筆や消しゴムは、使いやすい物を用意する。

- 「はじめに」「つぎに」「それから」「おわりに」などの文章のパターンを示す。
- 「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうした」など、基本的な文章の書き方を示し、それぞれの項目について思い出したことをメモする。

# 5

## 意味の理解や推論することが苦手

ハルキさんは、友だちとかかわりたい気持ちは強いのですが、つい友だちの気持ちを傷つけるようなことを言ってしまい、トラブルになることが多くあります。

### 子どもを観る視点例

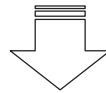
- 相手の表情や口調から気持ちを察しようとしている様子はあるか。
- 一方的に話しているような様子は見られるか。
- こんな時には、どうすればよいかという判断は、どの程度できるか。



### よく観察してみると

ハルキさんは、とても人なつこく自分から積極的に友だちに声を掛けるのですが、相手の返事を聞かずに、どんどん話を進めることがあります。また、相手が嫌そうな顔をしていてもやめることがなかったり、「秘密ね!」と言われた話も、他の人がいても平気で話してしまったりすることもあります。

### 推測できるつまずきの要因

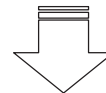
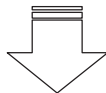


その場面の状況の理解が難しい

相手の表情や口調が読み取りにくい

相手の気持ちが分かりにくい

### 支援プラン



- なぜトラブルになったのかを双方の気持ちや状況をイラストや文字などで表すなど、本人が理解できる方法で説明する。
- 4コマ漫画やアニメ等の場面を見せながら、状況の変化について実況中継のように伝える。
- わざと気持ちを傷つけるようなことをしているのではないことをクラスの友だちに伝える。

- 表情が描かれたイラストや写真を用いながら、「こんな顔の時は、どんな気持ち?」と聞き、少しずつ表情と気持ちを結び付けられるように練習をする。
- ジェスチャーゲーム等で、身振りや表情から、相手の感情や雰囲気を読み取る練習をする。

- 相手を傷付ける言動があったときには、表情カード等を用いながら、相手の気持ちを考える機会をもつ。
- 状況に応じた振る舞いや言い方について、具体的なモデルを示しながら、教えていく。
- 本人が困ったり分からなかったりしことはメモをさせ、一緒に対応について考える。

## 注意の持続が難しい

ミチコさんは、授業中に挙手をして発表をすることもあります。何もせずに、ぼーっとしていることもよくあり、課題に集中して取り組むことが難しいです。

### 子どもを観る視点例

- キョロキョロと辺りを見回したり、ソワソワしたりしていないか。
- 取り組みが難しくなる時間や課題の量は、どのくらいか。
- 何をするのかという内容を理解できているか。
- 集中できている学習や活動に共通点はあるか。



### よく観察してみると

最初のうちはスムーズに取り組んでいても、途中で何か物音がしたり、動きが見えたりすると、そちらに気を取られてしまいます。また、一定の学習量や時間を超えると、何もせずにじっとして、指示をしても、取り掛かりに難しい様子が見られます。

### 推測できるつまずきの要因

掲示物や音、周囲の動きに敏感に反応してしまう

集中できる時間が短い

一度、気をそがれると、見ていたところ、考えていたところに戻りにくい

### 支援プラン

- 注目しやすいように、教室の前面や黒板の周囲をすっきりとする。
- 机の上に出す物や置く位置を図示するなどし、余計な物を出さないようにする。
- 座席は、刺激の強い窓側や出入口を避け、指示が伝わりやすい位置にする。

- 授業前に、学習の流れや課題をはっきりと提示し、見通しをもちやすくする。
- 一度に取り組む問題数を数問ずつに調整したり、自分で選んだりする。
- タイムタイマーなどで、時間的な見通しや目標を持ちやすくする。
- 気持ちの切り替えができるように、授業中に配り係を任せるなどする。

- さりげなく指差しをしたり、考えるべきことを声掛けしたりしていく。
- 自分でチェックしながら確かめられるように、学習や活動の手順表を作る。
- 一度に一つずつの課題を把握しやすいように、ふせん等を活用する。



# 7

## グループ活動が苦手

ミツルさんは、授業でグループ活動をする時に、いつの間にかグループの輪から離れていることがよくあります。また、休み時間に一緒に遊ぼうと誘われても友だちの輪に入らずに、一人で本を読んでいることが多いです。

### 子どもを観る視点例

- 友だちの話に興味を示し、聞こうとしているか。
- 自分が話す場面では、どんな様子が見られるか。
- グループ活動でやるべきことを理解しているか。
- 日常生活の中で、行動の手掛かりにしているようなことはあるか。



### よく観察してみると

グループでの話し合いの場面になると、困ったような顔をして、何も言わずに下を向いてしまうことが多くあります。自分が体験したことを話す場面や、メモを見ながら話す場面では、少し話をする事ができます。休み時間などは、自分から話し掛けて友だちの輪に入ることは少なく、一人で本を読んでいることが多く見られます。

### 推測できるつまずきの要因



あいまいな状況だと、どうしたらよいか分からない

友だち関係がうまく築けない

分からないときに、聞くことが難しい

### 支援プラン



- 手掛かりとなる具体物や写真を目の前に置くことで、関連する言葉やイメージを引き出しやすくする。
- あらかじめ、「いつ・どこで・どのように」などの要点で手順を書き示す。
- グループ内の役割分担を明確にしておく。

- なるべく少人数のグループからスタートする。
- ミツルさんとうまくかかわりがもてる子どもを同じグループにする。
- ミツルさんが、参加できそうな活動で、友だちとかかわって遊ぶ経験を普段から増やしていく。

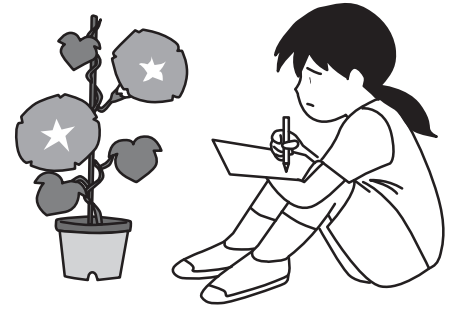
- ハンドサインやジェスチャーなどで、意思表示をする練習をする。
- 「考え中です」「待っていてください」「ヒントをください」など、考えをまとめたり、整理したりする時に便利な言葉を掲示しておく。

## 形の特徴をつかむことが難しい

ナオさんは、目の前の物をよく見て形に表したり、模倣したりする活動にあまり意欲を示しません。なかなか始めようとしないので、先生は「よく見ればできるよ」と励ましますが、うまくいきません。

### 子どもを観る視点例

- 対象のどんなところを見ようとしているか。
- 苦手とする絵の題材の傾向は、どのようなものか。
- 体育の動きで困難さをしめす時の様子は、どうであるか。



### よく観察してみると

「よく見て描いて」と、言われても、何を見たらよいのか分からないようで、困っている様子です。自由に絵を描くことは、好きなのですが、特に写生は苦手なようです。また、運動会に向けてのダンス練習では、モデルを見ながら踊りを覚えることに時間がかかります。

### 推測できるつまずきの要因

対象の向きや位置を見てとらえることが難しい

自分の手足の向きや動きをイメージしにくい

「よく見て」と言われても、どこを見たらよいのか分かりづらい

### 支援プラン

- 「右から何本目」「一番左の線だけが向きが違う」などと、細かい特徴を言語化したり図示したりする。
- 花の形、大きさ、色などを一つずつ観察できるカードを作り、それを見ながら特徴を確認して描いてみる。

- 運動のパターンや覚えてほしい動きを事前に、イラストや写真で示したり、言葉をカードに書いたりして確認する。
- 手を添えながら、必要な動かし方や力の入れ方が体験できるような運動を本人の様子を見ながら繰り返してみる。

- 「花びらは何枚か」「右手の位置はどこかな」というように見るべきポイントを端的に言葉で示す。
- 形の把握をしやすく、イメージしやすい具体的な言葉で伝える。
- 見るべき具体物等を指差しして確認する。



# 文章題が苦手

トシオさんは、計算問題は得意で意欲的に取り組むのですが、文章題になると、どんな計算式にすればいいのかが分かりません。テストの文章題は、読もうともせず白紙で提出することが少なくありません。

## 子どもを観る視点例

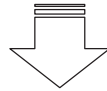
- 文章題で何を求められているか理解できているか。
- 問題文を読んで、内容をイメージできるか。
- 立式をしやすいようになるための方法を何か身につけているか。
- 国語の読み取りや音読の様子はどうか。



## よく観察してみると

国語の音読では、一文字一文字をたどりながら読み（逐次読み）、上手に音読できません。算数の文章題では、自分一人では、なかなか取り掛かることが難しいですが、担任が問題文を一文ずつ読むと、取り掛かることができます。また、キーワードに印を付けたり立式までの手伝いをしたりすると、答えを出すことができます。

## 推測できるつまずきの要因



文章を読む力が弱く、意味が理解できない

問題文の内容をイメージすることが難しい

計算式に置き換えられない

## 支援プラン



- 問題文は、一文ずつ改行したり、文節の区切れごとに斜線を引いたりして読みやすくなるように工夫する。
- 問題文は、教師が一度読む。
- 複雑な問題文は、考えやすいように、短く簡単な文に直したり、内容を整理したりする。

- イメージしやすいように、身近な題材を使った問題文にする。
- 一文ずつ自分の言葉で説明できるように時間を保障する。
- 数の関係では、問題文の内容を再現できるように、人形やパネルシアター、ペープサーなどで演じたり、具体物を使って操作したりする。

- 「のこりは」「一人分は」などのキーワードに注目できるよう、下線を引いたりマーカーで色を付けたりして、ピックアップしやすいようにする。
- 図や線分図、面積図など視覚的な手掛かりを使い、問題文の意味と式をつなぐようにする。